

Ⅱ 調査結果の要約

Ⅱ 調査結果の要約

1. 日常生活の状態について

① 家族以外の付き合い、連絡

●約7割が「友人」と回答しているが、90歳以上になると付き合い相手が極端に減少してくる。

「友人」69.1%、「親戚」62.3%の順に高い。ほとんどの人は付き合いを持ったり、連絡をとったりしている。

男性よりも女性のほうが、隣人との付き合い多い。しかし、男女ともに90歳以上は「付き合いはほとんどない」が増加する。

② 近隣、地域との付き合い

●約4人に1人は近隣との付き合いがほとんどなく、特に男性は女性に比べて低い。

「週2、3回」が25.6%と最も高い。男性は「ほとんどない」が27.6%と女性の17.8%に比べ、近隣との付き合いが低い。

③ 生計手段

●年金による人が約9割を占めるが、その中の約3割は、さらに預貯金等の財産収入を加えて生活している。

年金での生計手段が92.3%を占め、ほとんどの人は年金で生活している。また、そのなかで年金のみで生活している人は60.0%で、就労や預貯金による収入を年金に加えて生活している人は34.1%となっている。

就労している人は14.5%と、前回の20.6%、前前回の25.5%から連続して減少している。

④ 外出状況

(1) 頻度

●96.0%は外出しているが、健康状態によって外出回数が変わってくる。

全体の96.0%が外出しており、ほとんど外出しない人は3.0%。

健康な人の42.4%は、毎日外出しているが、健康状態が悪くなるに従って、外出回数が減っていく。

(2) 外出しない理由

●外出しない理由は「身体上の理由で困難」が51.1%、「外出の必用がないため」が51.1%である。

外出する必要性があっても、身体上の理由や交通機関への乗降困難などで出かけられない人が約5割である。

⑤ 充実感・生きがい

- 約7割の高齢者がテレビ・新聞など、身近なメディアを充実感の対象としている。
- スポーツなど体を動かすことに充実感を覚える高齢者が増加している。

テレビ、新聞といった手近にあるものが7割以上で、スポーツや散歩などの体を動かすことも4割以上あり、内外問わず、充実感や生きがいに対し、積極的になっていることがうかがえる。

2. 地域を含む高齢期での社会参加活動について

① 参加している、または参加した地域活動

(1) 現在参加している活動

- 現在地域参加活動を行なっている高齢者は4割未満で、参加していない人は約6割。

参加者は37.7%、参加していない人は61.8%である。

(2) 参加活動名

- 現在最も多く参加している活動は「町内会・自治会への参加」である。
- 高齢者でも自治会活動に参加せざるを得ない環境になっていることが考えられる。

「町内会、自治会活動への参加」が36.4%と最も高く、「趣味・娯楽活動」が35.0%、「健康・スポーツ」が32.7%と続く。

(3) 参加理由

- 約6割の高齢者が地域活動参加理由で「生活に充実感を持ちたいから」をあげている。

「生活に充実感を持ちたいから」が、58.7%で、「健康や体力への自信をつけたいから」も44.0%と半数近くが挙げており、新たな友人獲得などを含め、地域活動を充実感や健康の対象として、期待している高齢者が多い。

(4) 参加したい活動

- 社会参加より娯楽的活動に関心が高い。

「趣味・娯楽活動」が22.8%、「健康・スポーツ」が17.9%と娯楽的活動に関心が高い。設問がいままで参加した経験のない人へのものであり、「特にない」と答えた人は45.2%である。

② 参加上の問題点

●一番の問題は健康・体力に自信がないことである。

「健康・体力に自信がない」が 26.2%、「参加する時間的余裕がない」が 19.2%等、関心はあるが生活に余裕がない事がうかがえる。

③ 参加準備

(1) 65歳から74歳の方

●「特にない」が半数以上だが、女性の方が高齢期における社会参加への準備意識が高い。

「特にない」が 55.6%であるが、37.4%の人は好きなことや趣味をもつことをあげている。性別にみると女性は「好きなことや趣味をもつ」ことが 42.5%と男性の 32.1%を上回り、逆に「特にない」が、男性の 62.3%に比べて 48.0%と低くなっていることから、女性のほうが高齢期での社会との関わりを意識していることがうかがえる。

(2) 75歳以上の方

●75歳以上の高齢者の多くは、準備をしなかったことで社会参加に不自由があるとは思っていない。

「特にない」が 53.7%、「好きなことや趣味をもつ」が 34.5%と、これらから75歳以上の高齢者の多くは現在、特に準備をしなかったことで社会参加に不自由があるとは思っていないと思われる。

3. 生活の中での不安、心配ごとについて

① 不安、心配ごとについて

(1) 不安、心配を感じるか

●7割近くの高齢者が不安や心配をもっている。

「よくある」と、「ときどきある」を合わせると 67.0%の高齢者が不安や心配を感じている。

(2) 不安、心配の内容

- 7割以上が家族も含めた健康、6割以上が家族を含めた介護に不安、心配がある。
- 特に介護の問題は前年に比べて大きく増加している。

「自身と家族の健康」が75.6%、「ご自身や家族が介護が必要となったときのこと」が66.3%と高い。

健康については前回調査でも60.7%と高い数値であったが、前回は自身についての設問であったが、今回は選択肢が家族も含めてのものであるため、更に高い数値になったものと思われる。

また、「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」についても前回の40.0%から大きく増加しており、「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」の問題は今後もさらに高齢者の関心事、不安になっていくことが予想される。

② 相談相手

- 約7割の高齢者が「家族や親戚」に相談している。

「家族や親戚」が73.8%、「病院・診療所の医師」が39.1%と、上位である。「友人・知人や近所の人」は24.0%、「市役所・地区福祉窓口」が13.7%である。

また一方では、「どこに相談にいったらよいかわからない」という人も7.0%あり、孤立化の傾向も増えてきていることが考えられる。

4. 健康状態について

① 健康状態

- 「大した病気も障害もなく、普通に生活している」が5割以上で、「何らかの病気や障害はあるが、日常生活は、ほぼ自分でできるし、外出も一人で出来る」を含めて9割が日常生活を一人でできる状態である。

今回の回答では「大した病気や障害もなく、普通に生活している」が54.7%、「何らかの病気や障害はあるが、日常生活は、ほぼ自分でできるし、外出も一人でできる」が41.7%で、介助が必要な人は3.7%と低い。

② かかりつけ医

(1) かかりつけ医の有無

- ほとんどの高齢者はかかりつけ医師がいる。かかりつけ薬局は約7割と比較的低い。

「かかりつけ医がいる」と答えた人は88.7%あり、「かかりつけ歯科医がいる」も84.8%と高い。一方、かかりつけ薬局がいるのは68.4%で、かかりつけ医に比べると低い。

(2) かかりつけ医の必要性

●かかりつけ医を必要としている人は約7割であるが、一方、かかりつけ薬局を必要としている人の割合は低い。

「かかりつけ医を必要としている」が72.8%、「かかりつけ歯科医を必要としている」が67.5%と高い。一方「かかりつけ薬局を必要としている」は29.6%と低い。

③ 健康診断

(1) 受診状況

●4人に3人は毎年健康診断を受けており、毎年ではなくても受けている高齢者を合わせると9割に近い。

「毎年ではないが受けている」を加えると89.0%が診断を受けており、健康に関することが、高齢者の大きな関心であることを示す調査結果である。

(2) 不受診理由

●「体調が良いので検診を受ける必要がない」と「日頃、通院や治療をしているので検診を受ける必要がないから」とを合わせて7割強であるが、気になっていても行かない人と、行く所がわからない人が合わせて約2割いる。

「体調が良いので、検診を受ける必要がないから」と「日頃、通院や治療をしているので、検診を受ける必要がないから」を合わせて、76.6%であるが、「気にかかることはあるが、悪いところがあると怖いから」や、どこの病院で受けてよいかわからない人、どのような検診があるのかわからない人は合わせて22.8%である。

④ 病名

●約8割の高齢者は何らかの病気をかかえている。

かかえてる病気がない人は17.1%で、約8割の人が何らかの病気をかかえている。
男性と女性では病気の種類に違いがある。

⑤ 気をつけていること

●運動、食事、睡眠の三大要素をあげている。特に運動をあげる高齢者が増加した。
●健康のために気をつけているパーセンテージが高いのは、男性は運動、女性は食事。

「適度な運動」や、「食事・栄養バランス」を挙げた人が、それぞれ71.6%、75.6%と高い。次いで「十分な睡眠」が65.2%である。

これら健康の三大要素を前回調査と比較すると、運動、食事バランスについての意識向上がみられる。

なお、男性は運動、女性は食事に気をつけている傾向がある。

5. 介護保険について

① 保険料の感じ方

●高齢者の約7割は介護保険料を高いと感じている。

「高く感じる」47.6%と、「やや高く感じる」25.7%を合わせると、約7割の人が「介護保険料」を高いと感じている。前回の調査時より介護保険料の基準月額が1,000円値上がりしたためかと推測される。

② 保険料の考え方

●介護保険料を今以上に上げて欲しくない高齢者が約半数を占める。

サービスの充実があればやむを得ないとする人も24.4%いる。現状維持でよいと回答した人が47.2%と高く、年金が収入の主体のため、これ以上の負担はしたくない、あるいはできないと感じている。

③ 介護生活での希望

●6割以上の高齢者が自宅で介護を受けたいと希望している。

介護サービスの利用の有無を問わず、自宅で生活したい人が65.3%と高く、「介護保険施設（特別養護老人ホーム等）や病院でサービスを受けながら生活したい」（12.2%）、「有料老人ホームや高齢者向けのアパートに住み替えて介護サービスを利用しながら生活したい」（9.0%）といった、自宅から離れて生活したい人が合わせて21.2%である。

6. 高齢者福祉サービスについて

① 情報の入手方法

●半数以上の高齢者は「市の広報・ホームページ」によって情報を得ている。

「市の広報・ホームページ」が57.6%と高いが、「特に入手していない」という回答も36.3%とかなり高い。

② 利用者負担

●利用者負担の現状維持を望む傾向が強い。

「現状維持」が約3割を占めるのは、高齢者の生活においては費用の負担増を避けて欲しいということであろう。

「わからない」が36.6%と最大なのは、サービス内容を知らない、あるいは関心のない人がかなりいるためと思われる。

③ サービスの充実項目

- 「相談できる窓口」を望む人が約5割あり、また「高齢者が元気であり続けるための保健体制・介護予防事業」も4割以上の人に望まれている。
- 「市内の施設」や「在宅サービス」のように家族にも便利なサービスが求められている。

「相談できる窓口」を望む人が52.8%で最上位であった。次いで「高齢者が元気であり続けるための保険体制、介護予防事業」を望む人が44.5%で、次が「市内の施設」が35.0%、「在宅サービス」が32.6%で、家族にとっても会いやすく、利用しやすい近くて便利なサービス体制を望んでいる。

安否確認体制も29.0%あり、日常生活において頼れる存在が求められているといえる。

「家族構成別」では、各選択肢の選択数は「夫婦のみ」がもっとも高く、自分や配偶者に問題があったときに、自分だけでは対処できないと不安に思っていると推察される。

7. 生きがいづくり・社会参加に対する市の取り組みについて

① 必要な支援

- 活動できる施設や、行けるための交通手段など高齢者が実際に行動できる環境づくりが求められている。

まず、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設、場所の整備」が49.2%、さらにそこへ行くための「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」などが38.3%と、参加できる場と実際に参加できる体制を作る、あるいは整備することを求めている。

② 施策

- 「歩道の段差解消など、歩きやすい環境の整備」や、「駅や建物内のエレベータ・エスカレータの設置」など歩行の安全確保要求がさらに増している。

前回でももっとも要求の高かった「歩道の段差解消など、歩きやすい環境の整備」が66.6%と前回の51.9%を大きく越える結果となっている。

「駅や建物内のエレベータ・エスカレータの設置」なども44.1%と前回の31.3%を越えており、歩行の確保を要求する声が多い。

その他の意見の中に歩道での自転車走行の規制をあげたものがあり、自転車による歩道交通に不安や危険を感じている高齢者がいる。

「防犯のための取り組み」も44.6%と前回より高く、高齢者を狙った犯罪への不安に対する取り組みが求められている。

8. 介護予防事業について

① 講演・講座を知っているか

●「知らない」が6割以上であり、情報の伝達を考慮する必要がある。

「知らない」が60.3%と高く、情報が受け取られていないのが現状と思われる。

② 介護予防で市に力を入れてほしいこと

●「生活習慣病の予防」と、「認知症予防」が力を入れて欲しいことの上位である。

「生活習慣病の予防」が55.1%、「認知症予防」が43.7%である。

③ 参加の意思

●介護予防全般と認知症の講演会・講座に参加したいという高齢者が、それぞれ約4割いる。

「介護予防全般に関すること」39.5%、「認知症予防に関すること」34.6%が上位であるが、「参加したくない」が20.1%である。

9. 地域福祉権利擁護事業と成年後見人制度について

① 地域福祉権利擁護事業

●約6割は「知らない」と回答し、4分の1は「利用したくない」と回答している。

「知らない」が60.9%で、「知っている」は22.4%と低い。

利用の意思についても、「わからない」が54.3%、「利用したくない」が26.8%で、この事業はよく知られていない。

② 成年後見人制度

●「制度の名前は知っている」人を含めて約6割が知っているが、「利用したくない」が「利用したい」を、大きく上回っている。

「知っている」と、「知らない」が約4割とほぼ同じであり、地域福祉権利擁護事業に比べると、「制度の名前は知っている」も含めて知っている人が多い。

利用については、「利用したくない」が「利用したい」を大きく上回っている。

10. 災害に対する取り組みについて

① 安否確認

(1) 安否確認希望

●ほとんどの高齢者が「安否を確認してもらいたい」と回答している。

「安否確認をしてもらいたい」と、「今は必用ないが、将来してもらいたい」を合わせて 97.9% の人が安否確認をしてもらいたいと回答している。

(2) 安否確認者

●「家族や親戚」が9割以上だが、「知人や近所の人」も4割強と高く、近隣への期待も大きい。

「家族や親戚」が 95.6%と圧倒的に高いが、「知人や近所の人」も 45.1%と高く、近隣への期待も大きい。

「ひとり暮らし」では、「知人や近所の人」「民生委員」が高くなっている。

② 避難場所

●避難場所は9割強が知っている。

「知っている」70.0%と「だいたい知っている」20.3%を合わせて、約9割の人が知っている。

③ 災害備蓄

●約8割の人は必要であると考えているが、実際に備えているのは約4割である。

「備えている」42.0%と「いまは備えていないけれど必要だと考えている」40.4%を合わせて 82.4% の人が備えが必要だと考えているが、実際に備えている人は 42.0%である。